「未来の学校」の創造から実践へ

坂部小学校のモデルケース

～「金曜午前５時間日課」の導入による働き方改革の成果とその波及効果～

牧之原市立坂部小学校

校長　竹下知行

「未来の学校」の創造から実践へ　坂部小学校のモデルケース
～「金曜午前５時間日課」の導入による働き方改革の成果とその波及効果～

牧之原市立坂部小学校
校長　竹下知行

１　テーマ設定の理由

近年、教師の長時間勤務の問題や教員採用試験の倍率の低下、「教師不足」などが一体となった問題として取り沙汰されており、教職全体がいわゆる「ブラックな職業」であるという印象を持つ学生たちも少なくない。一方で、毎年約 10 万人が教員免許を新たに取得し、公立学校の教員採用試験には新卒・既卒を合わせて延べ 12 万人あまりが受験しており、その中から約３万人が新たに教職に就いている。さらに、民間団体等の調査では、小・中学生や高校生が将来なりたい職業として教師を挙げる割合は依然として高く、教師は引き続き上位に位置している。学生たちが教職を志す理由としては、子供たちの人生に直接影響を与えることができる点や、彼らの成長を共に喜びながら他では得られない経験を積める点に、教職の大きな魅力を感じているからではないだろうか。このような意義深く魅力的な教職のイメージをさらに引き立てていくためには、学生たちが教職現場を職場として客観的に見た際に、働きやすさの観点からも支持されるような改革を全国の学校で進めていく必要があると感じている。

そこで、本校の全教職員が教職志望者を意識して「未来の学校」を創造し、働き方改革の一環として取り組んできた「金曜午前５時間日課」の構想から、導入と運用、学力を含めた検証までの３年間の実践を考察することにした。

２　研究仮説

働き方改革の一環として「金曜午前５時間日課」を導入することで、教職員の業務負担が軽減され、授業準備の時間が確実に確保される。この取組により、教職員の時間外勤務が削減されるとともに質の高い授業が提供されることで、児童の学力の維持と向上が期待できる。また、教職員の働き方に対する満足度が向上し、より働きやすい職場環境の構築につながる。

３　研究方法

(1) 令和５年度「金曜午前５時間日課」の構想と準備

(2) 令和６年度「金曜午前５時間日課」の導入から運用までと検証

(3) 令和７年度「金曜午前５時間日課」の導入に伴う子供たちの学力等の検証と教職員の意識の確認

４　研究経過

(1) 令和５年度「金曜午前５時間日課」の構想と準備

ア　すべては教務主任の思いから

令和５年６月、静岡県教育委員会による新任校長校訪問の教務主任面談において、静西教育事務所大根所長から、教育課程編成における働き方改革推進の助言の中に、午前５時間日課が含まれていたことから、新任であった教務主任が、その可能性を模索し始めたことが起点となる。

イ　教務主任の先進校視察と報告を受けての教務部による構想と原案の追究

(ｱ) 午前５時間で下校時刻が早くなるため午後は授業準備や業務遂行などの時間が確実に確保できる。さらに金曜日に設定すれば次週のゆとりにつながる。

(ｲ) 休み時間が短かったり、給食の時間が遅くなったりするが、毎週の設定とすることで、慣れ　てくれば上手く運用できそうだ。

(ｳ) 週１回の設定ならば、その日の午後には、会議等を一切設定しない。

(ｴ) 多忙なのは教師だけでなく子供たちも同様で、モチベーションを考えれば週末の金曜日だけの設定でも効果が期待できる。

(ｵ) 完全下校後に休憩時間を設定すれば、児童がいない中で、全教員が確実に休憩をとることができる。

ウ　教育課程編成での協議

令和６年度に向けての教育課程編成では、「未来の学校」をイメージし、働き方を変えていくことをセットに編成を進めることを方針として、協議を重ねていった。教職員も、現在の働き方が持続可能ではないことを自覚しており、「やめる、かえる、へらす」の意識を高く持ち、様々な取組を見直した。午前５時間日課については、先進校の視察報告をもとに、教務部

としては、毎日ではなく金曜日限定での導入を提案した。協議では、建設的な意見が交わされ、導入が決定するとともに完全下校後には会議等を一切設定しないことで調整された。また、教務部と事務部が連携を図り、金曜日は教員の休憩時間45分を完全下校後に設定することになった。その結果として、休憩と授業準備や業務遂行の時間を確実に確保できる環境を創り出すことができた。さらに、この休憩時間を挟み、終業までの場合は分単位での取得が可能となる年次休暇の取得や勤務の割振りがしやすい環境となった。

エ　学校の働き方改革推進のための保護者・地域への説明と協力の依頼

(ｱ)　保護者への説明と協力の依頼(令和５年12月、令和６年３月)

ＰＴＡ運営委員会及び授業参観・懇談会では、文部科学大臣メッセージ（令和５年12月）、静岡県教育委員会教育長メッセージ（令和６年３月）をそれぞれ伝えた後、学校の方針を校長が、具体的な改善内容を教務主任が説明し、理解と協力を求めた。

(ｲ)　地域への説明と協力の依頼(令和５年12月、令和６年３月)

学校運営協議会では、坂部小学校の働き方改革について、現状と教育課程編成の進捗状況について説明を行い、意見交換を行った。地域教材を大切にした学びや地域連携は、引き続き深く大切にしていくことを確認し合ったことで本取組への協力体制の構築を約束していただけた。

オ　日課の試行及び決定

教務部で検討した結果、日課案は全部で６種類ができあがった。その中で、勤務の開始と終了の時刻を変更する必要がある３種類の日課は、牧之原市教育委員会と静西教育事務所の助言を受け、管理の視点で煩雑になることから今回は見送った。そして、残り３種類の中から決定することになったが、全教職員と全校児童にとって、経験したことのない日課であることから、令和６年２月から３月までに、試行とアンケート調査を行って調整し、令和６年度から導入している日課に決定した。

(2)　令和６年度「金曜午前５時間日課」の導入から運用までと検証

ア　「金曜午前５時間日課」の実践

令和６年４月から毎週「金曜午前５時間日課」を導入している。本校は、それまでノーチャイムで日課を運用していたが、「金曜午前５時間日課」はチャイム有りで運用することにした。そのため、教職員及び子供たちは慣れるまでに時間はかからなかった。教職員は、完全下校後の45分間の休憩で、和やかな会話が生まれ、その後は、授業準備や地域教材などを活用する総合的な学習の時間のためのＣＳＤや学年部の打合せ及び分掌の業務遂行に専念することができている。また、子供たちも一週間の疲れもあるためか、早い下校時刻に嬉しそうに帰っていく姿が見られる。なお、令和６年度から、子供たちの安全への配慮として、10月までは金曜日を集団下校とし、毎月第２金曜日はその下校時刻にあわせて地域の見守り活動の協力を得ている。

イ　学校評価の結果

(ｱ)　教職員編

【学校評価記述式（前期・後期）からの抜粋】
- 放課後を教材研究の時間に充てられるのでありがたいです。
- 午後に事務作業ができるので、とてもありがたいです。ゆっくりした時間がとれるので、ほっと一息つけます。
- ５時間授業の日課は、定着しているように思う。午後、集中して仕事をすすめられるのもよいと思う。
- 金曜日課と、その後会議を入れないことは、正解であると思う。
- 教職員の働き方としてはとても良い。金曜半日ということで意欲につながる。
- 金曜日の放課後は、会議等を全く入れないでいてくれてありがたい。病院の受診などの年休もとりやすい。
- ぜひ続けてほしい。子供たちが早い時間で帰るので休みも取りやすい。

以上の教職員の記述式の意見から、「金曜午前５時間日課」は、概ね受け入れられており、有効に活用されていることがわかる。

(ｲ)　児童編

前期設問「金曜午前５時間授業で午後１時30分完全下校に慣れてきたか。」に対して95.8%、後期設問「金曜午前５時間授業で午後１時30分完全下校を次の学年でも続けたいか」に対して93.8%の肯定的回答が得られたことから、「金曜午前５時間日課」は子供たちにとっても良好に機能していることがわかる。

ウ　時間外勤務時間の変化

時間外勤務時間の推移から、令和６年度（令和６年４月から令和７年３月までの12か月）の月ごと一人当たり（全教員12名）の時間外勤務時間の平均は32時間58分であり、令和５年度と比べ６時間05分の削減、12名12か月間で換算すると876時間08分間

の削減になっている。また、１日の平均は１時間 56 分に対して金曜日の平均は１時間 42 分間となっており、その差は 13 分間である。12 名 12 か月間で換算すると 32 時間 09 分の差があることになる。したがって、令和６年度、「金曜午前５時間日課」の導入により時間外勤務時間は大きく削減され、特に、金曜日の表れが顕著となった。

エ　「ニカニカ日課」の誕生

学校評価児童編（前期）結果を受け、教務部と心と体そだて部が連携し、児童会が中心となり「金曜午前５時間日課」の名前を募集、その後、アンケート調査を実施し、「ニカニカ日課」と決定した。「この日課でみんながニコニコになれるように」という思いが込められている。また、金曜日でなくても活用できることもネーミング設定の目的に含まれている。

オ　変形労働時間制による勤務の割振り及び年次休暇の取得への効果

修学旅行及び自然体験活動の変形労働時間制による勤務の割振りに関しては、関係教職員延べ７名の実績として、全 111 時間のうち、修学旅行実施前日の時間調整以外の 81 時間はすべて金曜日午後に振り替えられている。年次休暇については、令和６年４月から 12 月までに、13 名（含事務職員）で金曜日に 44 回、一人当たり 3.38 回の取得となっている。したがって、子供たちが下校した金曜日の午後に勤務の割振りや年次休暇を取得しやすくなったことがわかる。

カ　今後の発展のための準備

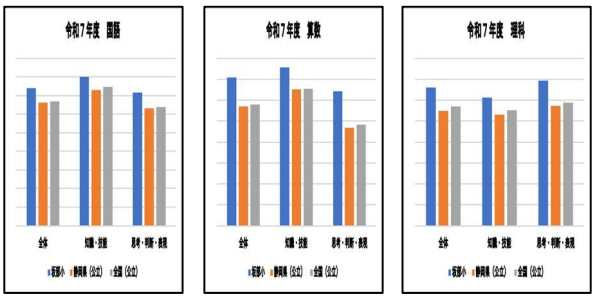
令和６年４月から令和７年３月までの 12 か月間において、「金曜午前５時間日課」の導入により、時間外勤務時間を月平均一人当たり約 33 時間まで大幅に削減できている。今後、授業準備や業務遂行の更なる充実のために、この午前５時間日課は、例えば、会議日ではあるが５時間日である水曜日への導入が容易となる。また、本校では、６時間日の週２日（火・木）に基礎学力定着のための朝の活動（10 分間）を行っている。授業時数として加算していないこの学習をモジュール学習（10 分間授業）とすれば、例えば、午前５時間日課を週二日設定する際にそのすべての授業を 40 分間授業とすることも可能となり、将来性と発展性が確認できている。

(3) 令和７年度「金曜午前５時間日課」の導入に伴う子供たちの学力等の検証と教職員の意識の確認

ア　子供たちの学力等の検証

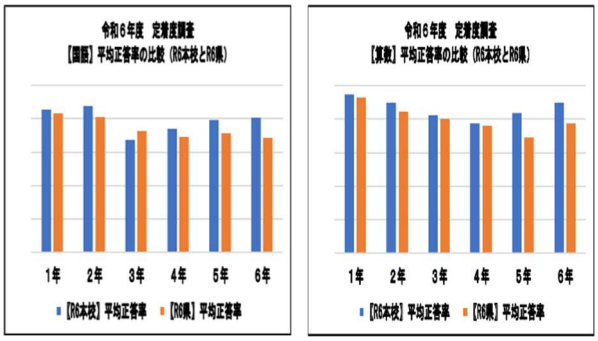
本校の教職員の弛まぬ努力と働き方の向上により、主観的な学校評価の高評価のみならず、客観的な評価としても、学力面では、定着度調査の結果から学習内容の基礎・基本の定着が、また、全国学力・学習状況調査から全ての科目・内容で非常に高い結果が確認できた。

(ｱ) 「令和７年度全国学力・学習状況調査（令和７年４月 17 日（木）実施）」の結果から



上グラフのとおり、令和７年度全国学力・学習状況調査（６年生）の結果から、国語・算数・理科のすべてにおいて、平均正答率「全体」「知識・技能」「思考・判断・表現」が、全国の平均正答率よりも高い結果となっている。特に、「思考・判断・表現」の差については、国語、算数、理科のいずれ教科においても大きく上回り、思考力・判断力・表現力の飛躍的な向上が見られた。また、正答数も全国よりも高い結果となっていた。

(ｲ) 「令和６年度定着度調査（令和７年１月９日（木）実施）」の結果から



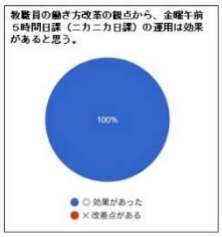
上グラフのとおり、令和６年度定着度調査では、６学年各２科目（国語・算数）計 12 科目のうち、11 科目が県の平均正答率を上回っている。特に、算数については全学年が上回っていること、２科目とも高学年の表れが顕著であることから、子供たちの基礎・基本の定着が図られていることがわかる。

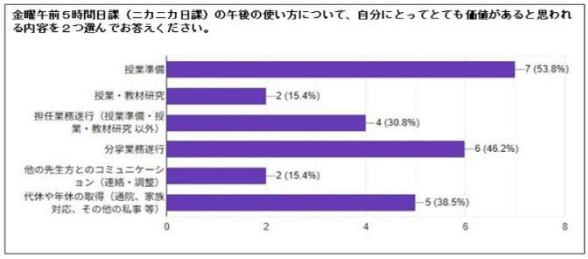
(ｱ)、(ｲ)から、「金曜午前５時間日課」の導入により、教員の授業準備の時間が確保されたことから、授業改善が進み、授業の質が担保され、結果として、基

礎・基本の定着が図られるとともに、思考力・判断力・表現力の向上につながったと考える。

イ　教職員の意識の確認

令和６年度末人事異動により、本日課の企画・運用を担当した前教務主任の異動に伴い、令和７年度は、新任の教務主任が中心となり、「金曜午前５時間日課」を継続して運用を行っている。令和７年７月の前期学校評価教職員編の一部抜粋が以下のとおりである。





まず、「教職員の働き方改革の観点から、金曜午前５時間日課（ニカニカ日課）の運用は効果があると思う。」の設問に対しては、「効果があった」が 100%であった。令和５年度教育課程編成時や令和６年度導入時は、本日課の導入に対し、心配する教職員の声もあったが、１年間の運用を通して、その効果を実感できたのだと考える。また、「金曜午前５時間日課（ニカニカ日課）の午後の使い方について、自分にとってとても価値があると思われる内容を２つ選んでお答えください。」の設問に対しては、「授業準備」が 53.8%で一番高く、次に「分掌業務遂行」が 46.2%、そして、「代休や年休の取得（通院、家族対応、その他の私事等）」が 38.5%となっている。この結果から、本日課が、本校教職員に浸透し、生み出された時間が有効に活用されていることがわかる。その他の設問「坂部小学校は居心地の良い職場である。」、「子供とともにめざす授業像を意識し、授業づくりに取り組んでいる。」、「成長やがんばりを実感させるための手立てや支援を行っている。」のいずれに対しても肯定的な回答が 100%となっており、教職員の日々の充実感と働き方に対する満足度が向上し、より働きやすい職場環境になってきていることがわかる。

５　研究成果

(1)　全国学力・学習状況調査で全国平均を上回り、特に思考力・判断力・表現力の顕著な向上が確認された。

(2)　年間で約 876 時間の時間外勤務時間を削減し、教職員の負担を大幅に軽減した。

(3)　教職員が午後に授業準備を計画的に行えるようになり、授業の質の向上につながった。

(4)　保護者や地域住民の支援の輪が広がり、学校が地域社会とより密接な関係を築くことができた。

(5)　週末金曜日の早い下校による児童のモチベーションアップが確認され、児童も満足するシステムとなった。

(6)　完全下校後の 45 分間の休憩時間の確保により、教職員の心身のリフレッシュが促進された。

(7)　金曜日午後を利用した年次休暇の取得が促進され、教職員の福利厚生が向上した。

(8)　教職員の「働きやすさ」が向上し、居心地の良い職場環境の創出に寄与した。

(9)「金曜午前５時間日課」により、授業準備と業務遂行の効率化が可能となった。

(10)「金曜午前５時間日課」の導入で教育活動の持続可能な運営の基盤が形成され、「主体的・対話的で深い学び」を促進する環境が整った。

以上のように、「金曜午前５時間日課」の導入により、教職員の年間時間外勤務時間を約 876 時間削減し、授業準備時間や休憩時間を確保することで働きやすい環境を実現した。児童の学力も向上し、特に思考力・判断力・表現力の顕著な成果が確認できた。また、地域や保護者との連携も強化され、子供たちの満足度やモチベーションも向上した。このような改革は、教育活動の質を高める持続可能な基盤を形成し、教職員の幸福度や職場の魅力を大きく引き上げることにつながると考える。

６　今後に向けて

坂部小学校の働き方改革を通じて得られた成果は大きいが、いくつかの課題に取り組む必要がある。教職員間の業務分担を調整し、負担の均一化を図るとともに、地域とのさらなる連携強化や安全対策の充実が求められる。また、デジタル技術の導入を通じて教育の質の向上や教職員の業務遂行の効率化を図ることも重要である。さらに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、児童一人ひとりが探究し、思考を深める「深い学び」の追究に力を入れる必要がある。これらの取組により、教職員と児童の心身ともに充実した環境を整備し、未来を担う子供たちの教育環境のさらなる向上と持続可能な学校経営を構想していきたい。